

## 青森県立高等学校将来構想検討会議 上北地区部会（第2回）概要

日時：平成26年12月12日（金）

13:00～15:15

場所：三本木農業高等学校

### <出席者>

上北地区部会委員

長谷川 光治 地区部会長、櫻田 泰弘 地区部会副会長、岩間 貴 委員、  
遠藤 剛 委員、沼尾 一秋 委員、福井 武久 委員、横田 渉子 委員

### 1 開会

- 西谷室長から、挨拶があった。
- 事務局から委員を紹介した。

### 2 調査検討

#### (1) 地区部会の検討の進め方について

事務局から、資料2、資料3をもとに地区部会の位置付け、今後の地区部会等の開催計画、当日の検討の進め方について説明した。

#### (2) 本県における高等学校教育改革の取組状況等について

事務局から資料4「高等学校教育改革の取組状況等」、資料5「各地区の高等学校の状況等」、資料5附属資料「青森県基本計画『未来を変える挑戦』上北地域」、資料6「高等学校教育に関する意識調査等（速報）」について説明した。

委員から次のような意見があった。

- 第3次計画検討の際には色々な条件の下で検討した。今回の将来構想検討会議の組織会では、議長が「統廃合」という言葉を何度か使ったと記憶しているが、統廃合するという考え方に沿って検討していくのか、3次計画の考え方は引き継いでいくのか確認したい。また、「これからの本県高等学校教育に求めること」の意見の中に、「教育効果を上げるには一定の規模による学校の活性化が必要」とあるが、単一学科の形で考えるのか複数学科を合わせた形で考えるのか。
- （事務局）将来構想検討会議の組織会においては、議長から「統廃合ありき」ではなく、これからの未来を担う子どもたちのためにはどのような学校が良いのかという視点で検討していただきたいという趣旨の発言があった。ただし、生徒数減少という現実を考えなければならないので、その中であって学校の形をどうするのが良いのかということを考えていただきたい。

また、第3次実施計画は平成29年度までで、この会議で検討するのは30年度以降のことになる。これまでの考え方を引き継ぐのではなく、これから先、ど

ういう形にするのが良いのかということを考えていただきたい。

単一学科が良いのか、複数学科が良いのかということは、第1分科会でも議論になったところであり、地区の意見を伺いたい。

### (3) 学校・学科の在り方について

#### ① 「地区の目指す学校・学科の在り方」についての意見交換

地区部会長から、将来の望ましい教育環境（どういう学校や学科が必要なのか）について、新たな視点からの意見を求めた。

委員から次のような意見があった。

- 今年の中学校等卒業予定者の進路志望状況第1次調査では、上北地区全体で1倍を切っており、定員に満たない高校もある。また、私立高校を志望する生徒が増えている。これは生徒の意識が変わったためなのか、定員数自体が生徒数よりも多いためなのか、中学校ではどのように感じているか伺いたい。
- 今年から高校入試が新しい制度になるため、中学校では生徒や保護者に対して説明会を行い、1、2年の教員についても入試の状況について研修を行っている。  
志望倍率については、県で県立高校と私立高校とのバランスを取りながら定員を決めていると思うので、最終的には例年並みに落ち着くと思っているが、今年度の入試は制度が変わったことによる不安感がある。
- 三沢市内の生徒は、三沢市内の高校、バスで十和田市、電車で八戸市に行くことができる。最近では八戸市内の高校へ生徒が流れているが、十和田市への電車がなくなったことも影響しているのかもしれない。地域的に三沢市内の生徒は選択肢があって恵まれている。例えば七戸町の生徒は七戸高校以外は全てバスで通学しなければならず、住んでいる所によって、そういう意味での格差はあると思う。
- 長野県のある地域で、産業で得たお金を教育に注ぎ込み、その子どもたちが東京の大学に進学しUターンをして、その地域をさらに活性化させていった話がある。子どもたちの目を大学等への進学で外に向かわせたいと思う。実際に生徒たちは外に目が向きつつある。今後は、進学を可能にするような学力の向上を期待したい。
- 高校の選択ということでは、経済的な部分や距離、時間を考えて、三沢市内の生徒は八戸市に向かっているのかもしれない。進学校という観点では、上北地区の進学校が三八地区と同等レベルになると、中学生の思いは変わるかもしれない。
- 地域としては、少子高齢化に伴って、介護士や医師は将来的に必ず必要だろうし、専門職に就く人も必要になる。他には農業も重要で、高齢化が進む一方、食料の需要はなくなるならない。個人で農業を営むのに限界があるなら、法人化して代

表者が替わっても、将来に向けて続けていくことを考えなければならないと思う。それに向けた学科もあればよい。

○ 上北地区としては、普通高校、農業高校、工業高校、商業高校、総合学科の高校があり、バランスが良くとれている。全県一区により、志ある者はどの学校でも選べる体制が大変良いと思う。各高校とも特色が見える形になっており、「入れる学校」から「入りたい学校」へと、高校側の努力と中学校側の理解を含めて変わってきていると思う。中学生に高校側のメッセージが伝われば、中学生は高校を見てくれると思う。

○ 授業料の減免制度はあるものの、諸会費の負担もあり、親の経済力から下宿させて希望の学校に通わせるということが困難な場合もある。

② 資料7「1 学校・学科の在り方に関する基本的な考え方」から「2（3）総合学科の基本的な方向性」までについて

事務局から、資料7「1 学校・学科の在り方に関する基本的な考え方」から「2（3）総合学科の基本的な方向性」まで説明した。

委員から次のような意見があった。

○ 三本木高校は進学校として、また併設型中高一貫教育校として、学力は伸びていると感じている。

○ 上北地区では、特に農業を大事にする必要がある。

○ 専門高校に関しては、その専門性の教育推進という観点から単一校が望ましいので、まとめる必要はないと思う。

○ 総合学科は中途半端な感じがするし、生徒数が少なくなれば総合学科は非常に厳しいので、見直しも考える必要があるのではないかと。

○ 三沢市から十和田市への電車がなくなり、バスになったことによって、三沢市からバスを乗り換えなくても三本木高校に通学できるようになったことなど、ある意味では便利になった面もある。交通機関については、地域のバックアップも得ながら、利便性を良くすることで生徒の選択の幅が広がるのではないかと。

○ 高等学校、特に専門学科で学んだことを社会で生かせるよう学習意欲を高めるためには、学校での学びが社会にどう繋がっていくかを意識して教育活動を行うことが大事だと思う。そのために、企業等の力を借りて体験的な授業が行われることは大変重要だと思う。地域だけではなく全国に発信できる学校の取組を、こ

の頃、新聞で目にすることが多くなってきている。「入れる学校」から「入りたい学校」へというのは、このような特色ある各校の取組によるのだと思う。また、例えば、食物調理科の生徒が英語科の授業で語学力を伸ばして世界に目を向けるとか、農業科と工業科のコラボレーションで新たな気付きを得るなど、専門学科同士の連携によって、さらに学校の可能性は広がっていくのではないかと。

- 他県を見ると工業系、商業系、農業系が一緒になった学校もあるので、うまくまとまることによって、良いこともあるのではないかと。
- 学校だけではなくて、交通機関を含め、地域として高校をサポートしていく体制を作っていく必要がある。
- 三本木農業高校の寮は、遠隔地の生徒のための寮ではなく、教育課程に裏付けされた農業経営者育成に必要な寮教育を行うためのものである。北海道などでは、これに加えて遠隔地寮を設置しているところもある。需要があるかどうかはわからないが、十和田市内に遠隔地からの生徒向けの寮をつくることも考える余地はあるのではないかと。
- 生徒数がどんどん減っていく中であって、全てを活かそうとすれば、小さい学校はどんどん小さくなるし、大きい学校もどんどん縮小していき、理科、地歴科、公民科、芸術科の各教科の選択肢という問題が出て、どこかでつまづく。  
地域感情からすれば学校は無くしてほしくはないが、子どもたちのことを考えた時に、魅力ある学校が新しくできれば、地域の人を納得させることができるのではないかと。例えば、普通科と総合学科など複数の学科を一緒にした学校を新しくつくり、2つの校舎で、あるいは、4階、5階建ての校舎でフロアを分けるなどして、お互いの教員が行き来できる環境をつくってはどうか。  
その際には、大規模校の進路指導や学習指導のノウハウと、小規模校の生徒一人一人に応じた丁寧な指導のノウハウのどちらも引き継いで、両方のメリットを生かせる学校をつくるのが大事だと思う。  
今ある学校に統合するのでは、いつまでも不満が残る。地域の人、子どもたちを納得させる魅力ある学校を新しくつくる。これがなければ、うまくいかないと思う。  
また、進学校の学習指導のノウハウをインターネットなどを通じて共有することによって、県内の生徒が同じ環境で学べるような広い「オール青森」の視点も取り入れながら、単なる数合わせではない学校づくりが必要である。
- 学科に関しては、上北地区はバランスが取れていて、工業、農業、商業、食物調理科ともに必要だと思う。

- 上北地区の学科は、今現在はバランスが取れていて非常に良いと思う。これからは、子どもたちの多様性についていけるかどうか。子どもたちが学校に何を求めて、何を目的に学校に来るのかということを中心に、環境づくりをする必要がある。
- 例えば統合が必要な場合や、新しい学校をつくったときに通学の支援を要望するということも考えられるのではないか。

③ 資料7「3 定時制課程」「4 通信制課程」について

事務局から、資料7「3 定時制課程」「4 通信制課程」について説明した。

委員から次のような意見があった。

- 不登校傾向にあった子ども、経済的に困っている子どもなどが通える高校が地区にあるというのは、保護者にとっても子どもたちにとっても良いことである。そういう子どもたちの受け皿となる学校は必要で、三沢市だけでなく十和田市も含めて上北地区全体として、そのような環境作りをしてほしい。

④ 資料7「5 学科構成等について」について

事務局から、資料7「5 学科構成等について」について説明した。

委員から次のような意見があった。

- 複数学科の併設などは、今後の多様な社会に対応していくためにとても重要ではないか。

⑤ 資料7「6 縦の連携・横の連携について」について

事務局から、資料7「6 縦の連携・横の連携について」について説明した。

委員から次のような意見があった。

- 三本木高校にはどんどん進学に力を入れてやってほしい。地区を牽引する学校があって然るべきと思う。また、昔は、小学生は黙っていても地元の中学校に入るが、今は中学校も選ばれる時代になっている。子どもたちが、三本木高校附属中学校に行こうと思えば行ける状況にある。従って、中学校として魅力ある学校をつくらなければならないと感じている。三本木高校附属中学校ができたことにより、良い影響が出ていると思う。
- 三本木高校附属中学校ができて、上北地区の小・中学生の学力が飛躍的に上がったと感じている。十和田市内の小学校の学力が上がって、それが上北地区全体

に波及し、その恩恵を今、中学校が少しずつ受けているのを感じる。これはすごいことである。

十和田市内には「特認校」である切田中学校があって、「三本木高校附属中学校に勝つ」ということを目標に頑張ってきた。県の学習状況調査で、一部の教科で上回ったこともある。そういう特色ある学校が十和田市にはあって、自分が入学する中学校をいろいろ選択できるということは、とても羨ましいことである。

- 学校のレベルが上がり、保護者も意識している。また、活性化にも繋がる。そういう面では、併設型中高一貫教育に悪いところは思いつかない。
- 三本木高校附属中学校の入学時の倍率が伸び悩んでいるので、来年は生徒募集で小学校を回ろうと考えている。附属中においては、パイロット校としてセンタ－的な中学校になりたいと考えている。先生方は教科指導に集中できるので、3～5年附属中学校で勤務して力を付け、転任した学校で活躍できると思う。そのような意味で、生徒だけではなく先生方にとっても良い影響があると思う。

⑥ 資料7「7 その他」「8 第2分科会での検討における留意事項」について

事務局から、資料7「7 その他」「8 第2分科会での検討における留意事項」について説明した。

委員から次のような意見があった。

- 全国からの生徒募集については、全ての高校で実施するというのは実際には難しいところがあるが、「日本に唯一」というような学校では考えられるとも感じる。
- 小規模校同士の連携だけではなく、小規模校と大規模校の連携によって、ノウハウの共有をすることも必要。
- 小規模校は、2学級なら、学年70人×3学年の210人なので、学校として何とかできるのではないかと。

地区部会長から、小規模校については2学級が限度で、それより小さい規模では難しいこと、魅力的な学校があれば、小さい学校を無くしても親は納得して通わせるようになること、その際には通学の利便性や通学支援についても検討が必要になってくるということを当地区部会の意見として発したいというまとめがされた。

地区部会長が、今後、次期計画を策定していく過程で、地域の方々から意見を聞く上で、どのようなことに留意すればよいか意見を求めた。

委員から次のような意見があった。

- 地域から見ると学校は敷居が高い。学校の情報はあまり伝わってこないので、地域の実情等に応じた学校の在り方を検討するためにも、日頃から学校の方から地域に発信することも必要なのではないか。
- 情報を提供するに当たっては、より多くの人が聞くことができるように、段階などを考えて行うことが必要である。

本日の会議で出された意見を事務局が取りまとめ、それを地区部会長が確認した後、上北地区の意見として第5回第1分科会で報告する旨の発言が地区部会長からなされた。

### 3 閉会